

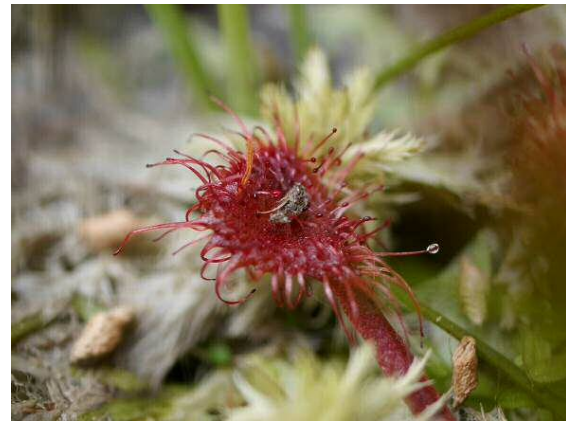


サギソウ

黒瀬庄ノ沢緑地は、面積が8000平方メートルあります。「ため池ゾーン」には2つの池を整備しており、モリアオガエルや多くの種類のトンボ類を楽しむことができます。

「湿地ゾーン」にはトキソウやサギソウが群生し、開花時期はすばらしい眺めになります。また、「湿地の女王」とも言われるサワランやカキランなども観察できます。

このほか、食虫植物であるミミカキグサやモウセンゴケ、湿地性の植物であるホソバリンドウ、ノハナシヨウブ、ミズギク、ウメバチソウ、ツクデマアザミなどの植物が四季折々に楽しめます。



虫を捕えているモウセンゴケ

とても自然が豊かなんですね。黒瀬庄ノ沢緑地はいつでも見ることができますか？

緑地は入口が2か所あり、どちらも門が閉じてありますが、自由に中に入っただけです。ただし出入りした後は必ず門を閉めておいてください。

また、湿地の中は木道の外には踏み込まないようにしてください。貴重な植物がだめになってしまいます。入口には緑地を紹介するパンフレットを置いてありますので、観察に役立っています。持ち帰りも自由ですので、お気軽にお持ちください。



ホソバリンドウ

また、大変残念なことに、植物を採取していく人がいます。植物はその環境の中で生きているものですので、採

また、緑地の中にはここで見られる植物や動物を紹介した看板がいくつか設置してあります。

現在、困っていることはありませんか？

先ほども踏み込まないようにとお願いしましたが、写真などを撮りたいためか、湿地の中に踏み込む人がいます。湿地性の植物は希少なものが多くありますので、そのような行為はやめていただきたいと思っています。



本日は、新城市作手黒瀬で湿地の保護活動に携わっている矢頭一起さんにお話を伺いました。

矢頭さんは黒瀬庄ノ沢緑地の保護活動に取り組んでいらつしやると伺っておりますが、今までのような活動をされてきたのでしょうか。

黒瀬庄ノ沢緑地は、かつては1帯が湿地となっていました。第二次世界大戦後、田んぼとして使われてきました。

その後、耕作放棄地となり、30年以上放置されてきましたが、10年前に愛知県の農地環境整備事業の対象としていただいたので、遊歩道などを設置し、湿地として整備することができました。なお、農林水産部の事業であるため、湿地ではなく緑地という位置づけとなっています。

これを機会に、「子どもたちにふるさとの自然を残したい」との思いから、地区の57戸が中心となって、「黒瀬美土里会」を立ち上げました。

黒瀬美土里会は、年に6回ほど緑地内の下草刈りや看板設置など、環境整備に汗をかいています。

また、小学生や地域の方を対象に自然観察会を開催して、緑地の豊かな自然を紹介しています。



モリアオガエルの卵塊

緑地の環境整備というのは、具体的にどんなことをするのですか？

湿地というのは手入れをしないと、周りの草や木が進出してきて乾燥してしまい、湿地でなくなってしまう。そのため、定期的な草刈りが欠かせません。

また、湿地を訪れる人のために、湿地の植物や動物について説明した案内看板を作成し、湿地の数か所に設置しています。

黒瀬庄ノ沢緑地の特徴や魅力について教えてください。

ありのままの姿が一番きれいに見えることができるというところです。では、これからの課題や、将来的な活動はどのように考えられていますか？

現在行っている観察会は、地元小学生や地域の方が中心ですが、今後は地元以外の皆さんにも広く黒瀬庄ノ沢緑地の魅力を知っていただきたいと思っています。

また、以前はよく見られていた植物や昆虫がだんだん見られなくなっています。そのような植物については、植栽をするなどして、できるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。

湿地の植物は他にない特徴的なものも多く、私たちの目を惹きつけてくれます。湿地の環境整備を継続して行っている方がいるからこそ、この環境が保たれているのだと感じました。今後とも、矢頭さんはじめ黒瀬美土里会の皆様のご活躍を祈念します。